

結果のあらまし

1 . 定住意識

福生市に住んで何年になるかについては、「30年以上」(37.1%)が最も多く、4割弱となっている。次いで、「20～30年未満」(21.0%)が約2割となっている。以下、「10～20年未満」(17.8%)、「5～10年未満」(12.0%)、「1～5年未満」(8.8%)、「1年未満」(2.4%)と続く。

定住意向については、「ずっと住み続けたい」(45.8%)が4割台半ばと最も多く、これに「当分の間住みたい」(28.6%)を合わせると《住み続けたい》(74.4%)の割合は、7割台半ばを占める。一方、「できれば市外に移転したい」(8.4%)と「移転する」(2.1%)を合算した《移転したい》(10.6%)は約1割にとどまっている。

移転したい人にその理由を尋ねたところ、「騒音などの公害がある」(27.5%)が3割弱と最も高くなっている。次いで「子どもの教育環境が悪い」(23.8%)、「買い物が不便」(21.3%)が高く、それぞれ2割台となっている。

2 . 生活環境評価

生活環境に関する12項目の評価を尋ねたところ、「非常に満足」と「まあ満足」を合わせた《満足》の割合が最も高いのは、「住まいの日当たり、風通し」(48.4%)で約2人に1人が満足している。次いで「ごみの収集方法」(41.3%)、「食料品、日用品の買い物の便」(40.6%)、「緑や空気など自然環境」(40.2%)が約4割と高くなっている。一方、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた《不満》の割合が最も高いのは、「騒音、振動、大気汚染などの公害」(44.7%)で4割台半ばを占める。次いで「老後の生活を送る場所として」(27.4%)、「病院や診療所などの便利さ」(25.6%)、「通勤・通学や外出のときの交通の便」(21.0%)が2割台と高い。

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を試みた。これは「非常に満足」に2点、「まあ満足」に1点、「普通」に0点、「やや不満」に-1点、「非常に不満」に-2点のように、評価それぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。この算出方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど評価は高く、逆に-2.00点に近いほど評価は低いことになる。

これによると、最も評価点が高い項目は「住まいの日当たり、風通し」(0.51)となっている。次いで、「緑や空気など自然環境」(0.37)、「ごみの収集方法」(0.31)、「食料品、日用品の買い物の便」(0.31)が続いている。一方、最も評価が低い項目は「騒音、振動、大気汚染などの公害」(-0.42)、次いで「老後の生活を送る場所として」(-0.14)、「病院や診療所などの便利さ」(-0.02)がマイナスの評価点となっている。

生活環境の総合評価については、「非常に住みやすい」(4.0%)と「まあ住みやすい」(45.3%)を合わせた《住みやすい》(49.2%)が約半数となっている。一方、「やや住みにくい」(11.6%)、「非常に住みにくい」(1.5%)を合わせた《住みにくい》(13.1%)は1割強にとどまる。また、「普通」は37.1%となっている。

3 . 福生市の魅力と将来像

福生市の施設や行事で、福生らしいものを尋ねたところ、「七夕まつり」(58.7%)の割合が最も高く、6割弱を占める。次いで「多摩川沿いサクラ並木」(47.9%)が5割弱、「多摩川」(38.5%)、「玉川上水」(35.0%)が3割台、「多摩川中央公園」(29.9%)、「横田基地」(29.9%)、「ほたる祭り」(29.7%)

が約3割と続く。

福生市の将来像について尋ねたところ、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」(49.6%)の割合が最も高く約半数となっている。次いで「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」(39.1%)、「緑豊かな美しい景観のまち」(35.1%)が3割台、「安心して子育てができるまち」(26.4%)が2割台で続いている。

4. 環境問題

容器包装プラスチックの収集について尋ねたところ、「可燃ごみの収集日は減らしてもらいたくないので、現行の3週間に1回の収集でよい」(38.3%)が最も割合が高く4割弱となっている。「可燃ごみの収集日を少し減らしてその分を容器包装プラスチックの収集に振り分け2週間に1回の収集とする」(31.3%)は約3割、「可燃ごみの収集日を週3回から週2回に減らし、容器包装プラスチックの収集を週1回にする」(17.5%)2割弱となっており、それらを合わせると《容器包装プラスチック収集の増加希望》者(48.8%)は約半数である。

ごみ減量やリサイクルで心がけていることについて尋ねたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(82.2%)の割合が8割を占め、最も高くなっている。次いで「不要なものや使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」(51.2%)が約半数、「再生紙の商品を利用している」(42.7%)、「繰り返し使えなくなった物は分別して資源としてリサイクルする」(41.2%)が4割台である。以下、「買い物袋を持参している」(35.8%)、「食料品の買い過ぎや食事の作りすぎに注意している」(28.9%)、「丈夫なものを選び長く使う、修理して使う」(26.3%)と続く。

環境問題について、最近どのような事柄に関心があるか尋ねたところ、「地球温暖化」(81.0%)の割合が最も高く、約8割となっている。次いで、「自然破壊」(48.5%)、「オゾン層の破壊」(42.7%)、「水質汚染」(40.9%)が4割台で、「アスベスト」(29.7%)、「ダイオキシンの発生」(29.6%)が約3割で続く。

5. 福祉社会

子どもの健全育成に必要な施策について尋ねたところ、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(59.8%)の割合が最も高く6割となっている。次いで、「身近な地域で子育ての相談や支援が気軽にできる養育環境の推進」(32.7%)が3割台で続いている。以下、「一時保育などの保育サービスの充実」(27.0%)、「受験戦争の緩和など、ゆとりある教育環境の確保」(24.9%)、「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」(23.0%)となっている。

老後をどのように暮らしていきたいと思うか尋ねたところ、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(31.9%)と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(31.4%)が3割台と高くなっている。「自分に適した仕事を持ちたい」(20.4%)は2割台となっている。

ボランティア活動への参加経験については、「したことがある」(25.5%)は4人に1人となっている。今後のボランティア活動への参加意向については、「したいと思う」(56.9%)が半数を超えている。一方、「したいとは思わない」(39.8%)は4割となっている。

6 . 横田基地

横田基地の賛否について尋ねたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(52.9%)が最も多く、半数を上回る。これに「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」(19.7%)、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」(8.2%)をあわせた《肯定派》(80.7%)が約8割となっている。

横田基地のあり方について尋ねたところ、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」(40.0%)が最も高く、4割を占めている。次に共同使用に賛同する「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」(30.3%)は3割であった。

7 . 防災対策

火災や地震などの防災対策について家族あるいは近所の人と話し合っているかどうか尋ねたところ、「よく話し合っている」(3.4%)はごく僅かで、「たまに話し合っている」(33.1%)と合わせても、《話し合っている》(36.5%)は、約3人に1人である。一方、「あまり話し合っていない」(37.6%)は4割弱、「まったく話し合っていない」(24.9%)は2割台半ばで、それらを合わせた《話し合っていない》(62.5%)は6割を占める。

避難場所の認知度について、「2箇所以上知っている」(35.6%)は約3人に1人、「1箇所は知っている」(53.0%)は約2人に1人となっており、それらを合わせる自宅近くの避難場所を《知っている》(88.7%)は、9割弱を占める。

自宅の消火器について、「備えてあり、使い方もよくわかっている」(39.2%)は約4割、「備えてあるが、使い方はあまり良くわからない」(17.8%)は2割弱で、それらを合わせると6割弱が自宅に消火器を《備えている》(57.0%)。一方、「備えていない」(41.7%)は4割強である。

8 . 国際化社会

今後、外国との交流がすすむ中で、どのようなことができると思うか尋ねたところ、「外国人に対して差別をしたり、特別視をしない」(35.2%)が最も多く3割台半ばとなっている。以下、「外国語や外国に関する勉強をする」(14.6%)、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」(12.0%)と続く。

国際化を進めていく上で、重点をおくべきことについて尋ねたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(41.3%)の割合が最も高く4割強、次いで、「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」(35.4%)が3割台半ば、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(28.5%)が3割弱で高くなっている。以下、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」(17.5%)、「外国の情報や資料を収集し、市民が利用できるようにする」(14.1%)、「外国の都市と姉妹都市の提携をする」(12.9%)、「国際交流センターなどの国際化を進める施策を整備する」(12.8%)と続く。

9 . 男女共同参画

男女共同参画の関心度については、「大変関心がある」(4.9%)と「まあ関心がある」(24.3%)を合わせた《関心がある》(29.2%)の割合は、約3割である。一方、「あまり関心はない」(27.8%)と「まったく関心はない」(8.7%)を合わせた《関心がない》(36.5%)の割合は3割台半ばを占める。また、

「どちらともいえない」(32.8%)は3割強となっている。

男女の地位について身近な場における評価を尋ねたところ、「平等」の割合が最も高かったのは『教育の場』(59.5%)で約6割を占める。次いで、『家庭生活』(46.0%)は4割台半ば、『職場』(33.1%)は3割台半ば、『社会通念や習慣』(23.7%)、『社会全体』(20.4%)は2割台となっている。また、「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」を合わせた《女性優遇》は、ほとんどの項目で1割にも満たないが、『家庭生活』(12.3%)では1割強であった。一方、「男性の方が優遇されている」と「やや男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、『社会全体』(59.2%)では約6割、『社会通念や習慣』(56.3%)では5割台半ばである。

男女平等に関する用語・法律・事業の認知度については、「内容まで知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた《知っている》の割合は、『セクシャルハラスメント』(92.1%)、『ストーカー規正法』(90.8%)で高く9割を超えている。また、『セクシャルハラスメント』では「内容まで知っている」(73.2%)が7割強と高い割合を示している。一方、「まったく知らない」では『福生市男女共同参画行動計画』(73.7%)と『福生市男女共同参画情報誌「あなたとわたし」』(69.1%)が7割前後、『次世代育成支援対策推進法』(60.4%)が6割、『福生市女性悩み事相談』(51.8%)が5割強となっている。

10. 行政改革

福生市に求める行政改革について尋ねたところ、「民間企業並みのコスト意識を持って事務事業や効率的運営に努める」(71.6%)の割合が最も高く7割強となっている。次いで、「職員数を増やさず、事業の委託化や臨時職員の採用等工夫する」(50.8%)が約5割と高くなっている。以下「施設利用やサービスを受ける場合、ある程度の費用負担するのは当然」(29.0%)、「近隣自治体との施設等の広域利用などをもっと進めるべき」(24.5%)、「新しい事業や施策のためには、補助金・交付金等の見直しもやむを得ない」(21.1%)と続く。

近隣の市や町との合併の賛否については、「賛成である」(17.0%)と「どちらかといえば賛成である」(30.2%)を合わせた《賛成派》(47.2%)の割合は5割弱を占める。一方、「どちらかといえば反対である」(25.7%)と「反対である」(18.9%)を合わせた《反対派》(44.6%)は4割台半ばで、《賛成派》と《反対派》は拮抗している。

11. インターネット

インターネットを利用しているかどうか尋ねたところ、「はい」(48.3%)と「いいえ」(50.4%)はともに約5割とほぼ同率となっている。

インターネットを利用している人に、利用している機器について尋ねたところ、「パソコン」(84.4%)が8割台半ばを占め、「携帯電話・PHS」(15.3%)は1割台半ばと僅かである。

インターネットを利用している人に、どこで利用しているか尋ねたところ、「自宅」(79.8%)が8割を占め、「会社」(15.6%)は1割台半ばと僅かである。

インターネットを利用している人に、回線の種類を尋ねたところ、「ADSL」(41.8%)が4割強と最も多く、「光」(16.7%)、「携帯電話・PHS」(13.1%)は1割台となっている。

市のホームページの閲覧状況は、「過去何回か見たことがある」(23.6%)が2割強であるものの、7割の人が「見たことはない」(70.6%)と回答しており、多くの人が市のホームページを見ていない状況にある。

市のホームページに期待する情報について尋ねたところ、「市民生活に関する情報」(44.7%)の割合が最も高く、4割台半ばとなっている。次いで、「市がこれから始めようとする計画の内容の紹介」(27.3%)が3割弱と高い。以下、「市の防災情報」(20.8%)、「市の各種施策についての情報」(18.7%)、「市内施設予約サービス」(15.2%)と続く。

12. 市税等の納入

市税、水道料金などを納入する際に不便を感じていることについて尋ねたが、「不便を感じていない」(75.2%)人が7割台半ばを占めており、多数の人が現状で不自由していないと言える。不便を感じている中では、「コンビニ、ATM、パソコン端末、携帯電話端末で納めることができないので不便を感じる」(14.1%)が多いが、1割台半ばである。

13. 広報

『広報ふっさ』の閲読度については、約2人に1人が「ざっと目を通す」(48.7%)と回答しており、これに「くわしく読む」(17.3%)と「必要なところだけ読む」(17.3%)を合わせると《読む》人(83.2%)の割合は、8割強を占めている。一方、「ほとんど読まない」(12.5%)と「見たことがない」(3.7%)を合わせた《読まない》人(16.2%)は1割台半ばにとどまる。

『広報ふっさ』を読んでいる人に関心のある記事を探したところ、「催しもの関係」(32.5%)が最も多く、約3人に1人となっている。以下、「福祉関係」(13.9%)、「保健・衛生関係」(10.6%)、「ごみ関係」(10.3%)と続く。

『福生市議会だより』の閲読度については、「ざっと目を通す」(37.2%)が最も高く4割弱となっている。これに「くわしく読む」(3.8%)と「必要なところだけ読む」(14.6%)を合わせると《読む》人(55.7%)は半数以上となっている。一方、「ほとんど読まない」(36.9%)と「見たことがない」(6.2%)を合わせた《読まない》人(43.1%)は4割強となっている。

『福生市議会だより』を読んでいる人に関心のある記事を探したところ、「可決された案件や陳情」(35.5%)と「一般質問について」(32.7%)が3割台半ばと高くなっている。以下、「委員会の活動状況」(11.4%)、「本会議の経過」(9.2%)、「予算・決算の内容」(6.9%)となっている。

14. 市民と市政

市政への市民参加について尋ねたところ、「市の各種世論調査」(28.1%)の割合が最も高く3割弱となっている。次いで、「まちづくりモニター制度」(18.6%)、「環境保護活動など市民活動」(16.6%)が高い。以下、「公聴会」(11.1%)、「議員との懇談会」(10.9%)、「市長との懇談会や対話集会」(10.6%)、「手紙などによる提案制度」(9.9%)、「まちづくり市民会議等」(8.7%)と続く。